

平成22年度助成研究の概要

厚生労働省など、国の機関及び公益法人などの公募により採択された研究です。

本年度は、文部科学省科学研究費補助金事業1課題、民間財団補助金事業2課題及びの計3課題が採択され研究を実施しています。

No.	研究員	所属	研究課題（概要）
1	小島 尚	理化学部 薬事毒性・食品機能G	<p>文部科学省科学研究（基盤C研究 一般） 薬物乱用防止教育の実効性を高める違法ドラッグ毒性情報の活用に関する研究（平成22～24年度）</p> <p>本研究の目的は違法ドラッグ等の毒性情報を活用した薬物乱用防止教育の資料/教材を作成することにある。現在、文部科学省等から指導法や数多くの教材が作成されているが、ライフスキルの向上を目指したものが多く、一方、乱用薬物の危害性を網羅的に羅列するのではなく、科学的に実験に基づく系統的な資料/教材は少ない。</p> <p>そこで、我々が蓄積してきた乱用薬物の情報について医薬品情報科学を利用して整理し、従来の啓発教育に不足する科学的根拠に基づく資料/教材を作成し、共同研究者の大学等における教育で試行・改良を行い、実効性が高い教育のための資料/教材を目差す。</p>
2	小島 尚	理化学部 薬事毒性・食品機能G	<p>（財）大同生命厚生事業団 瘦身健康食品中のサリチル酸誘導体が食物アレルギーを増悪する可能性について</p> <p>1/3以上のヒトが何らかのアレルギー症状を有すると言われている。一方、健康への関心が高まり様々な健康食品が利用されているが、その中にはアレルギー増悪因子と知られるサリチル酸誘導体を含むものがある。そこで、流通量の多い瘦身を標榜する健康食品に注目し、健康食品のサリチル酸誘導体が食物アレルギーに及ぼす影響を考察し、重篤な健康被害を防止するように検討を企画した。</p>
3	高橋智恵子	微生物部 細菌・環境生物G	<p>（財）公衆衛生振興会特別研究助成 VNTRによる結核分子疫学調査の基盤構築及び推進</p> <p>結核菌の遺伝子型別データを遺伝系統的に分類することは感染の伝播状況の把握や流行株の監視を行う上で有用であり、地域における型別データを蓄積する体制を確立することは重要である。</p> <p>本事業では、保健福祉事務所と連携を撮り、遺伝子型別法のひとつであるVNTR法を用いて結核菌株の型別を行い、現在の流行株を推定することで、感染経路解明に役立てる。また、解析結果をデータベース化し、県域周辺地域とも解析結果の共有を試み、広域データベース化を図り、本県の結核予防対策に役立てる。</p>